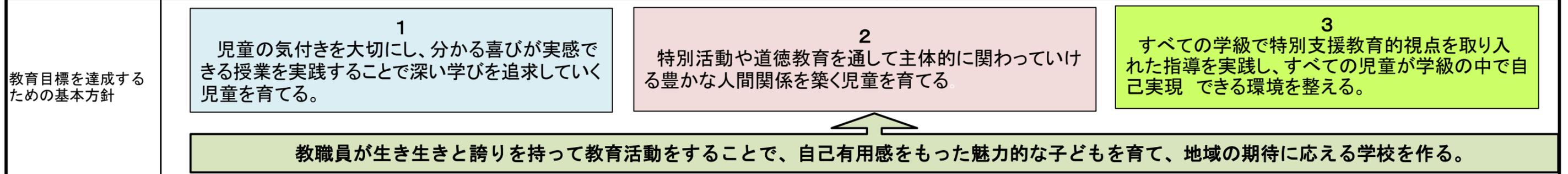


令和2年度 練馬区立開進第二小学校 経営計画

学校教育目標	○意欲的に学ぶ子	○広く思いやる子	○進んで体を鍛える子
目指す子ども (幼児・児童・生徒)像	<p>○意欲的に学ぶ子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさを知り生き生きと学ぶ子。 ・人の話をよく聞き自分の考えを深められる子。 <p>○広く思いやる子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめ、自分の良さがわかる子。 ・人を思い、人とつながり、人に尽くせる子。 <p>○進んで体を鍛える子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標に向かってチャレンジできる子。 ・継続して取り組める子。 	目指す学校 (教師像を含む)	<p>1. 活気のある学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が主役となれるやりがいのある学校 ・向上心を持ってチャレンジできる学校 ・常に明るく楽しく暮らせる学校 <p>2. 安心して通える学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ、暴力、体罰のない学校 ・誰一人として一人にしない学校 ・ルールや規則をみんなで守る学校 <p>3. 学ぶ集団である学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考える楽しさが分かる学校 ・知恵を合わせる楽しさが分かる学校 <p>4. 創造する学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいよりよいことを作り上げていく学校 ・多くのアイディアにあふれる学校 ・自由な発想ができる学校 <p>5. 信頼される学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が使命感をもって仕事をする学校 ・きちんと謝れる学校 ・感謝の気持ちを忘れない学校 <p>6. 本質を見失わない学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見た目や思い込みに流されない学校 ・あたりまえを疑うことができる学校



今年度の重点

A 重点目標	B 中期経営目標 (数年間でどのような状態にするか)	C 短期経営目標 (今年度末までにどのような状態にする)
1	<p>児童の気付きを大切にし、授業の中で児童が頭を悩ませ考え、分かる喜びが実感できる授業を実践することで深い学びを追求していく児童を育てる。</p> <p>1時間1時間の授業を作る上で、常に児童の実態把握に努め、児童の学びの最近接領域を指導の中心に設定することで児童の、主体的で深い学びを引き出すことができる。</p> <p>1時間1時間の授業の中でポイントとなる部分(場面)を教師が把握し、意図的に発問を工夫することで児童の多様な考え方を引き出すことができる。</p> <p>1時間1時間の授業の中で、児童同士が考えを深めていけるような、意義のある話し合い活動を行うことができる。</p>	<p>授業を組み立てる際に、単元のねらいに即した児童の周辺知識について把握することが大切であることを教師が理解し、児童の知っていること、知らないことを把握した上で授業を行うことができる。</p> <p>1時間の授業の中心となる部分を常に意識をして授業を組み立てていく意識付けを教員一人一人に行っていく。授業観察の際に授業をポイントを必ず明記させる意味を共通理解し、定着させる。</p> <p>単なる意見表明で終わってしまう形式的な話し合いから脱却し、聞く力を育て、主体的に友達の話が聞ける児童を育てる。</p>
2	<p>各学校行事において、児童一人一人に明確な目当てをもたせることで、意欲的に活動に取り組み、自信をもって人前で自己表現ができる。</p> <p>集会活動、縦割り班活動、複数学年合同授業を積極的に行うことで、上学年児童の自立を強力に促し、下学年児童に思いやりをもって接し、下学年児童からあこがれる存在となることできる。</p> <p>道徳授業の中で、児童一人一人の多様な思いや考えを引き出す工夫を最大限に行うことで、様々な考え方や価値観に気付き、自分の生き方考え方について深く思いを巡らすことができる。</p>	<p>各行事ごとに個別の取り組み目標を持たせ、目当てを自覚しながら活動に取り組み、キャリアパスポートを作成し、必ず振り返りを行うことで児童一人一人に達成感をもたせることができる。</p> <p>委員会活動等での発表や常時活動にて、自己の役割の大切さを児童一人一人の能力に応じて理解させ使命感をもたせるとともに、活動を通して児童が自己実現できるように指導することができる。</p> <p>道徳教育研究を3年にわたって行った成果を生かし、道徳授業における中心発問を吟味し、児童が主体的に考えを深めていくことができる授業実践を行う。</p>
3	<p>本校特別支援学級(あおぎり学級)、特別支援教室(つつじルーム)の指導法に学ぶことで、通常学級における個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>児童の思い、保護者の思いに常に耳を傾け、教師一人一人が自己の指導方法や内容について自己点検をし、日々改善していくことができる。</p> <p>学級内の児童についての情報を校内のすべての関係職員から収集することで、児童一人一人に対する指導を工夫し、すべての児童が学級で自己実現できたことを実感できる教室環境を整える。</p>	<p>職員会議、特別支援教育全体会、OJT研修等を通して、全職員が特別支援教育的視点をもった指導について理解し、実践することができる。</p> <p>保護者会、個人面談、キャリアパスポート等を通して、保護者の思いを丁寧に聞き取り、児童一人一人をより深く理解し、個に応じた指導を実践することができる。</p> <p>1年間の学校生活を通して児童一人一人が、やりがいや達成感をもって取り組むことができる場面があり、それに対して自己評価をすることができ、自己有用感を持つことができる。</p>

重点目標を達成するための今年度の取り組みと評価基準・評価結果

A 重点	C短期経営目標 (年度末までにどの ような状態にするか)	具体的な方策	具体的な取り組み		成果		自己評価			学校関係者による評価		
			評語	取組に関する指標 (可能な限り数値で)	評語	成果指標(可能な限り数値で)	取組指 年間	成果指標 年間	考察(コメント)	改善策	評語	主な意見
1 深い学び	授業を組み立てる際に、単元のねらいに即した児童の周辺知識について把握することが大切であることを教師が理解し、児童の知っていること、知らないことを把握した上で授業を行うことが児童の主体的で深い学びにつながることを知るができる。	単元において、児童が主体的に学ぶための導入を工夫した授業を行うことができる。	A 教職員のアンケートでA, B評定90%以上	A 児童・保護者アンケートでA, B評定90%	B	B	B	年3回の全教員に対する管理職による授業観察から、各教員が授業や単元の導入に工夫していることがわかる。しかし児童の実態把握についてはまだ不十分で主体的な学びにつながるにはまだ時間がかかる。	児童の学習内容に関する実態把握をより徹底し、児童の興味関心を主体的な学びにつなげていけるように授業方法や発問を工夫していく。	A	・教員の自己評価は厳しい。いつもとは異なる環境下で、工夫して指導を行っているように思う	
			B 教職員のアンケートでA, B評定80%以上	B 児童・保護者アンケートでA, B評定80%								
			C 教職員のアンケートでA, B評定70%以上	C 児童・保護者アンケートでA, B評定70%								
			D 教職員のアンケートでA, B評定70%未満	D 児童・保護者アンケートでA, B評定70%未満								
	1時間の授業の中心となる部分を常に意識をして授業を組み立てていく意識付けを教員一人一人に行っていく。授業観察の際に授業をポイントを必ず明記させる意味を共通理解し、定着させる。	児童が主体的に考え、授業に取り組むための授業のポイントを意識した指導を行うことができる。	A 教職員のアンケートでA, B評定90%以上	A 児童・保護者アンケートでA, B評定90%	B	B	B	授業のポイントを意識することはほとんどの教員ができています。児童の94%が授業で大事なことが何かを理解していると回答していることから一定の成果が見られたと考える。	児童が何を学ぶ時間なのかの認識はできているがどう学ぶかについては教師の指示待ちの状況が見られる。学び方についても自分で考えられるような指導の工夫をしていく必要がある。	A		
			B 教職員のアンケートでA, B評定80%以上	B 児童・保護者アンケートでA, B評定80%								
			C 教職員のアンケートでA, B評定70%以上	C 児童・保護者アンケートでA, B評定70%								
			D 教職員のアンケートでA, B評定70%未満	D 児童・保護者アンケートでA, B評定70%未満								
	単なる意見表明で終わってしまう形式的な話し合いから脱却し、聞く力を育て、主体的に友達の話が聞ける児童を育てる。	児童が常に主体的に話が聞けるように1時間1時間の授業の工夫を行うことができる。	A 教職員のアンケートでA, B評定90%以上	A 児童・保護者アンケートでA, B評定90%	D	B	D	各教員が制限された授業形式の中で、児童が主体的に友達の話を聞けるような工夫をすることができている。しかし、本来的なペア学習やグループ学習ができないため、教員の自己評価は低い。	本年度の指導の工夫を生かし、来年度以降、ペア学習やグループ学習が自由にできるようになったときに内容のある児童同士の話し合い、聞き合いができるように取り組んでいく。	C		
			B 教職員のアンケートでA, B評定80%以上	B 児童・保護者アンケートでA, B評定80%								
			C 教職員のアンケートでA, B評定70%以上	C 児童・保護者アンケートでA, B評定70%								
			D 教職員のアンケートでA, B評定70%未満	D 児童・保護者アンケートでA, B評定70%未満								
2 自主・自立	各行事ごとに個別の取り組み目標を持たせ、目当てを自覚しながら活動に取り組む、キャリアパスポートを作成し、必ず振り返りを行うことで児童一人一人に達成感をもたせることができる。	児童一人一人のキャリアパスポートを作成し、児童が自己の成長の確認のために活用することができる。	A 教職員のアンケートでA, B評定90%以上	A 児童・保護者アンケートでA, B評定90%	D	B	D	大きな行事が展覧会のみであったため、限定的な評価となっている。教員は行事で児童を育てることがほとんどできずもどかしい状態が続いた1年だった。その中でもキャリアパスポートへの取り組みはしっかりとできた。	行事や学期ごとの振り返りはよくできているのでその実績を生かし、来年度実施される多くの行事に取り組むことで児童の成長を促していく。	C	・行事は減っても実施できた行事において、子供たちに目的意識をもたせることができているのではないかと。	
			B 教職員のアンケートでA, B評定80%以上	B 児童・保護者アンケートでA, B評定80%								
			C 教職員のアンケートでA, B評定70%以上	C 児童・保護者アンケートでA, B評定70%								
			D 教職員のアンケートでA, B評定70%未満	D 児童・保護者アンケートでA, B評定70%未満								
	委員会活動等での発表や常時活動にて、自己の役割の大切さを児童一人一人の能力に応じて理解させ使命感をもたせるとともに、活動を通して児童が自己実現できるように指導することができる。	指導する児童一人一人が指導の場面で自己実現ができているかを確認することができる。	A 教職員のアンケートでA, B評定90%以上	A 児童・保護者アンケートでA, B評定90%	B	C	B	学校全体や学年での活動が極端に制限されたため、児童が学校全体のために役立っていると感じる場面がほとんどなく、自己評価をできない状況だった。	本年度、限られた活動の中だが、1時間1時間の授業や学級活動の中で児童が活躍できたことを実績に来年度は広がった活動範囲の中で自分が全体に貢献できたことを強く意識させていく。	C		
			B 教職員のアンケートでA, B評定80%以上	B 児童・保護者アンケートでA, B評定80%								
			C 教職員のアンケートでA, B評定70%以上	C 児童・保護者アンケートでA, B評定70%								
			D 教職員のアンケートでA, B評定70%未満	D 児童・保護者アンケートでA, B評定70%未満								
	道徳教育研究を3年にわたって行った成果を生かし、道徳授業における中心発問を吟味し、児童が主体的に考えを深めていくことができる授業実践を行う。	道徳授業実践後に必ず授業反省を行い、児童「考える道徳」が十分行われたかを検証していく。	A 教職員のアンケートでA, B評定90%以上	A 児童・保護者アンケートでA, B評定90%	C	B	C	教員は「考える道徳」の実践のために努力をし、自己反省もしている。しかし、児童の多様な考え方を引き出すにはまだまだ努力と工夫が必要である。	個々の教員がさらに授業経験を積んでいく過程で児童のつぶやきや書いた意見を拾い上げ、児童が多様な考え方に触れられる指導力を身に付けていく必要がある。	D		
			B 教職員のアンケートでA, B評定80%以上	B 児童・保護者アンケートでA, B評定80%								
			C 教職員のアンケートでA, B評定70%以上	C 児童・保護者アンケートでA, B評定70%								
			D 教職員のアンケートでA, B評定70%未満	D 児童・保護者アンケートでA, B評定70%未満								
3 個に応じた指導	職員会議、特別支援教育全体会、OJT研修等を通して、全職員が特別支援教育的視点をもった指導について理解し、実践することができる。	生活指導夕会や特別支援全体会で学んだ児童の特性とその支援の仕方を学級や授業の中で実践することができる。	A 教職員のアンケートでA, B評定90%以上	A 児童・保護者アンケートでA, B評定90%	C	B	C	各教員が特別支援教室巡回教員や臨床心理士、SCなどによる児童の見取りを参考にし、個別の支援をすることはできている。保護者に対し児童の発達検査への理解も進み、個に応じた支援の参考とすることができた。	児童理解について児童は一定の評価をしているが保護者の評価が決まるといえないことから児童の成長や課題をより細かく保護者に情報提供していくことが必要である。	C	・教員の自己評価はいつも低い。 ・児童の自己評価も低い。特に「周りの役に立っている。」と感じることができていない。賞賛し合う文化、感謝を伝える文化が醸成されていない。	
			B 教職員のアンケートでA, B評定80%以上	B 児童・保護者アンケートでA, B評定80%								
			C 教職員のアンケートでA, B評定70%以上	C 児童・保護者アンケートでA, B評定70%								
			D 教職員のアンケートでA, B評定70%未満	D 児童・保護者アンケートでA, B評定70%未満								
	保護者会、個人面談、キャリアパスポート等を通して、保護者の思いを丁寧に聞き取り、児童一人一人をより深く理解し、個に応じた指導を実践することができる。	年度当初の保護者会にて担任の指導方針を明確にし、面談や日々の保護者との連絡を通して保護者の思いを丁寧に聞き取り、児童の指導に生かすことができる。	A 教職員のアンケートでA, B評定90%以上	A 児童・保護者アンケートでA, B評定90%	A	B	A	教師による保護者の思いを聞き取ることは日々の連絡等を通して行うことができた。しかし、事後対応となることも多く、より細かい配慮が必要と思われる事案があった。	教員と保護者の間に児童に対する認識の差が出てしまわないよう、児童が学校で安心して自分の思いを教員に伝えられる環境作りをより強化していく。	A		
			B 教職員のアンケートでA, B評定80%以上	B 児童・保護者アンケートでA, B評定80%								
			C 教職員のアンケートでA, B評定70%以上	C 児童・保護者アンケートでA, B評定70%								
			D 教職員のアンケートでA, B評定70%未満	D 児童・保護者アンケートでA, B評定70%未満								
	1年間の学校生活を通して児童一人一人が、やりがいや達成感をもって取り組むことができる場面があり、それに対して自己評価をすることができ、自己有用感を持つことができる。	日々の授業を通して、児童一人一人が活躍できる場面を設定し、児童同士が認め合いができるようにする。	A 教職員のアンケートでA, B評定90%以上	A 児童・保護者アンケートでA, B評定90%	B	B	B	学級内においては限定的な学習内容の中、教員は工夫をして児童一人一人に対し活躍の場を設ける努力をすることができた。しかし児童の自己有用感が高くなかった。	児童が自分を客観的に捉えることができるように教員が常に働きかけを行い、児童同士の認め合いが進む取り組みを強化していく。	A		
			B 教職員のアンケートでA, B評定80%以上	B 児童・保護者アンケートでA, B評定80%								
			C 教職員のアンケートでA, B評定70%以上	C 児童・保護者アンケートでA, B評定70%								
			D 教職員のアンケートでA, B評定70%未満	D 児童・保護者アンケートでA, B評定70%未満								

* 学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の観点で行う。

A 自己評価は適切である B 自己評価は概ね妥当であるが根拠資料が不足している C 自己評価と実態との差が大きい D 自己評価方法を見直す必要がある

|